

あらい農園身土不二物語 一二二十四節氣 季節彩る野菜の物語

京都市右京区で多品種の野菜を有機・無農薬で栽培する若手農業者と同市上京区で健康惣菜・弁当販売店を経営する中小企業者が連携。「二十四節氣」をベースに、四季折々の旬の野菜の味わいや食の大切さが伝わるように農産物のひとつひとつにレシピを添えて、農家による農産物の提案販売を行う。

農林漁業者

新井 遼

〈京都市右京区〉

中小企業者

藏立 悅子

〈京都市北区〉

【連携のねらい】

○農林漁業者

有機・無農薬で栽培した旬の野菜にレシピを添えて宅配するとともに、連携事業者への販売で経営改善を進める。

○中小企業者

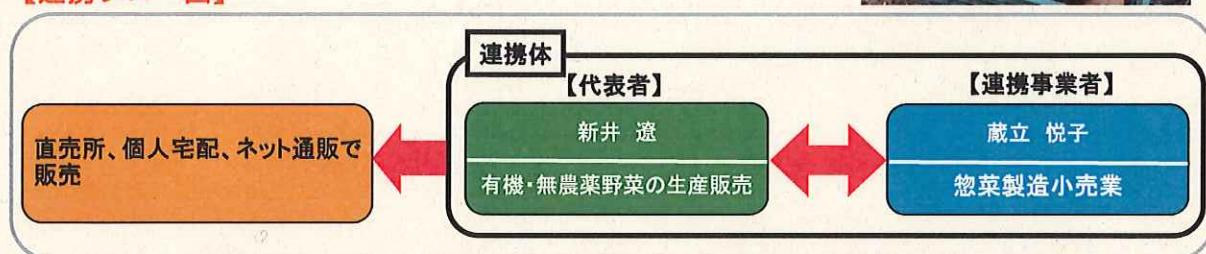
健康惣菜の材料として有機・無農薬野菜を安定的に確保し、自社店舗、事業所などに販売する。

【他の商品との違い】

野菜にレシピ、栽培日記を添付して紹介するサービスで提案型販売を行い差別化する。



【連携フロー図】



【連携による効果】

農林漁業者

有機・無農薬野菜を宅配するとともに、連携事業者へ安定的に販売

野菜のレシピや栽培日記を添える新サービスにより、新規顧客を開拓できる。連携事業者への安定的な販売ができる。

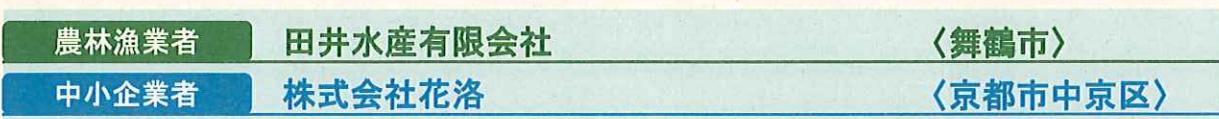
中小企業者

有機・無農薬野菜を安定的に確保、健康志向の高い顧客に販売

惣菜に使う有機・無農薬野菜の安定した仕入先を確保することで、店舗販売だけでなく、健康惣菜に対して関心の高い事業所や食堂への惣菜提供が期待できる。

京634式舞鶴の魚をブランド化するプロモーション事業

舞鶴市田井地区の漁業者と京都市内で回転寿司店舗を展開する中小企業者が連携。舞鶴で獲れた魚をその日のうちに京都市内の大型商業施設内のアンテナショップで販売し、消費者に届けるとともに、ＩＣＴを活用した情報発信と魚料理の新メニューの提案を行う。



【連携のねらい】

○農林漁業者

舞鶴の魚を京都市内の料理店へ継続的に供給することにより経営の安定化を図る。

○中小企業者

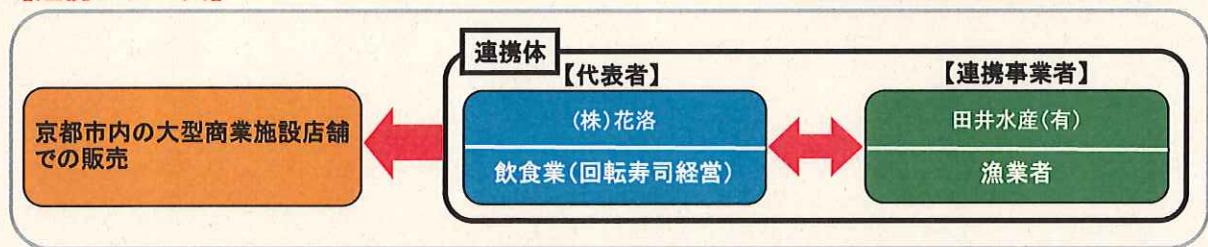
情報ツールの活用による舞鶴の魚のファンの獲得と顧客ニーズの拡大を図る。

【他の商品との違い】

産地から店舗までの配送時間を短縮し、舞鶴の魚を京都市内の消費者にその日のうちに販売するとともに、魚離れ世代に新メニューを提案することで差別化する。



【連携フロー図】



【連携による効果】

農林漁業者

舞鶴の魚の需要拡大による地域の活性化

一次加工処理を行い、付加価値の高い商品を開発することにより、舞鶴の漁業の収益性を高め、地域の持続的な活性化が期待できる。

中小企業者

舞鶴の魚（海）のイメージアップとブランド化

舞鶴の新鮮な魚を京都市内の消費者に提供するとともに、ＩＣＴの活用による漁場から店舗への情報発信を行うことで、舞鶴の魚（海）のイメージアップを図り、「舞鶴ブランド」の確立を目指す。

京都嵯峨野産 ベっぴん甘恋トマト 赤と青の加工品の展開

京都嵯峨野でトマト栽培を行う農業者と宇治市で和洋菓子、ジャム等調味料を製造販売する中小企業者が連携。規格外トマトと廃棄されていた熟す直前の青いトマトを使って、加工品シリーズを商品化する。

農林漁業者	中村農園	〈京都市右京区〉
中小企業者	株式会社京都紀翔	〈宇治市〉

【連携のねらい】

○農林漁業者

規格外トマト、廃棄していた熟す直前の青いトマトを使った加工品を開発し、経営の効率化を図る。

○中小企業者

菓子やジャム等に加え、トマトの加工品を開発することにより、自社の取り扱いアイテム数を増やす。

【他の商品との違い】

熟す直前の青いトマトを使った商品を加えたカラフルな商品展開は新規性と優位性を有する。

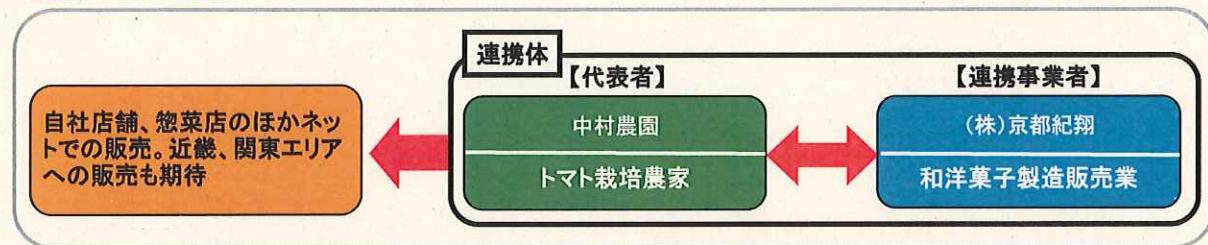


トマトジャム(青・赤)



トマトケチャップ(青・赤)

【連携フロー図】



【連携による効果】

農林漁業者

売上拡大による持続的な都市農業の確立

京都嵯峨野産のトマトのブランド化を図るとともに、その他の嵯峨野産京野菜の売上拡大を目指することで、継続的な都市農業を行う上で基盤の構築が期待できる。

中小企業者

商品の品揃えの充実による販路拡大

従来の和洋菓子、調味料にトマトの加工品を加えて品揃えを充実することで、販路拡大が期待できる。

ドライエイジング「熟成」技法で仕上げる「京都熟成ビーフ」

南丹市で黒毛和牛の肥育販売を行う農業者と京都市内で飲食・食肉加工販売業を営む中小企業者が連携。安心・安全にこだわりを持つ牧場で熟成加工に適した黒毛和牛を肥育し、熟成加工して販売することにより新たな京都ブランドを創造する。

農林漁業者	有限会社京都丹波牧場	〈南丹市〉
中小企業者	株式会社 T・S コーポレーション	〈京都市南区〉

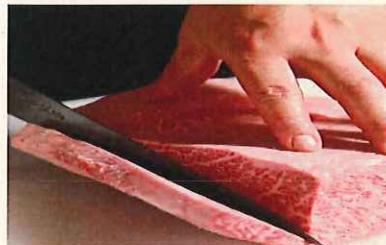
【連携のねらい】

○農林漁業者

安心・安全にこだわり肥育した黒毛和牛を熟成用肉として販売拡大していく。

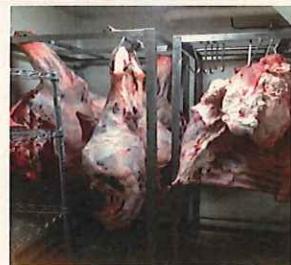
○中小企業者

自社の熟成加工技術により付加価値の高い熟成肉を販売して、新たなブランドを確立する。

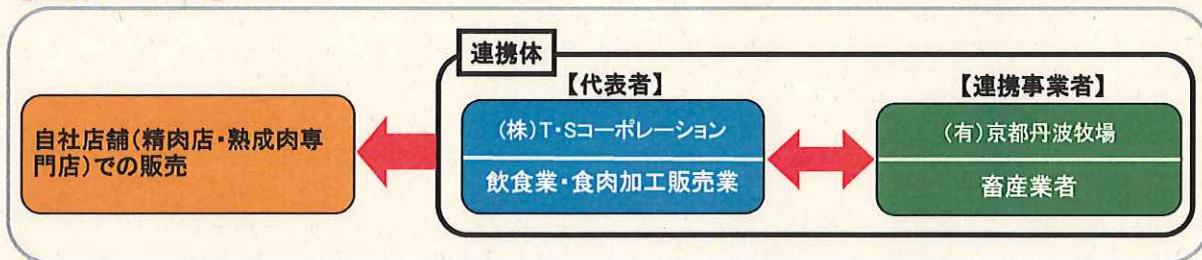


【他の商品との違い】

京都での熟成肉に適した肥育と熟成加工によって、既に販売されている熟成肉との差別化を図ることができる。



【連携フロー図】



【連携による効果】

農林漁業者

熟成用肉の販売による経営の安定

安心・安全にこだわり肥育した黒毛和牛を新たに「熟成用肉」として販売することで、経営の安定化が期待できる。

中小企業者

熟成加工技術による高付加価値の「京都熟成ビーフ」のブランド化

黒毛和牛肉の熟成加工技術により、付加価値の高い「京都熟成ビーフ」としてブランド化を図ることで、販売拡大が期待できる。

「祝」と「武士米」のコラボ： 「武士の酒・武士の水」で、みんなで乾杯！！

京都市伏見区で米・野菜を栽培する農業者と同市内で飲食業を営む中小企業者が連携。黒米(古代米)を使った日本酒とノンアルコール醸造飲料の2種類を開発するとともに、これに合う惣菜、サービスも試作開発する。

農林漁業者	中嶋農園	〈京都市伏見区〉
中小企業者	有限会社京フーズ	〈京都市中京区〉
連携参加者	府立京都すばる高等学校・招徳酒造株式会社	

【連携のねらい】

○農業者

武士米(黒米)と新たに栽培する酒造好適米「祝」を使って、日本酒、甘酒を開発・販売し、農業経営の安定化を図る。

○中小企業者

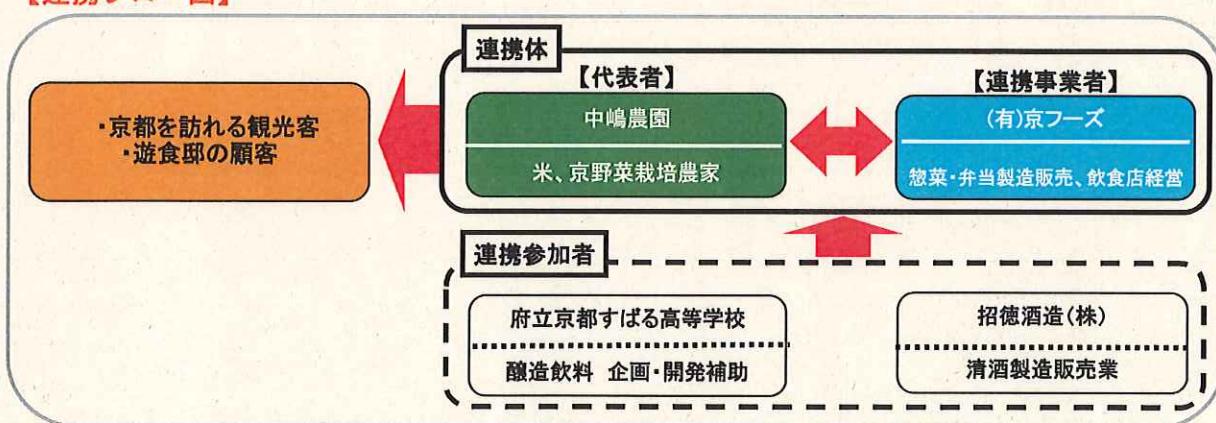
自社の地産地消レストラン遊食邸での料理に合わせた京都らしいお酒をメニューに加える。

【他の商品との違い】

黒米と酒米「祝」を使った日本酒、ノンアルコール醸造飲料は他になく、新規性が高い。



【連携フロー図】



【連携による効果】

農林漁業者 新たに酒米「祝」を栽培し、新商品を開発することで経営を安定化

独自ブランド「武士米」と酒米「祝」を使い、年間を通して販売できる加工品を開発することで、収益の拡大が期待できる。

中小企業者 地元産の米を使った酒と惣菜の販売拡大

自社の地産地消レストランで、武士米や京都産の酒米「祝」を使った酒やノンアルコール醸造飲料を提供するとともに、これに合う新しい惣菜メニューを開発し、売上拡大を目指す。

京都ブランドのポップコーンの開発・販売

京都市左京区広河原を拠点に農薬や化学肥料に頼らない農業を営む農業者と同市右京区で主に市内の農家から直接仕入れた野菜をネット販売している中小企業者が連携。爆裂種とうもろこしを原料にして、京都らしいフレーバーのポップコーンを開発・販売する。

農林漁業者

亀井 芳郎

〈京都市中京区〉

中小企業者

アグループ株式会社

〈京都市右京区〉

【連携のねらい】

○農林漁業者

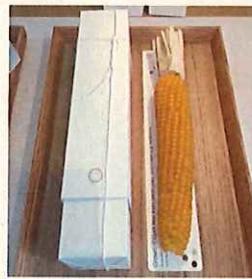
乾燥品として出荷できない爆裂種とうもろこしをポップコーンに商品化して販売する。

○中小企業者

ネット販売でのノウハウをポップコーン販売でも活用し、経営の安定化を図る。

【他の商品との違い】

農薬や化学肥料を使用しないとうもろこしを原料にした商品として差別化できる。

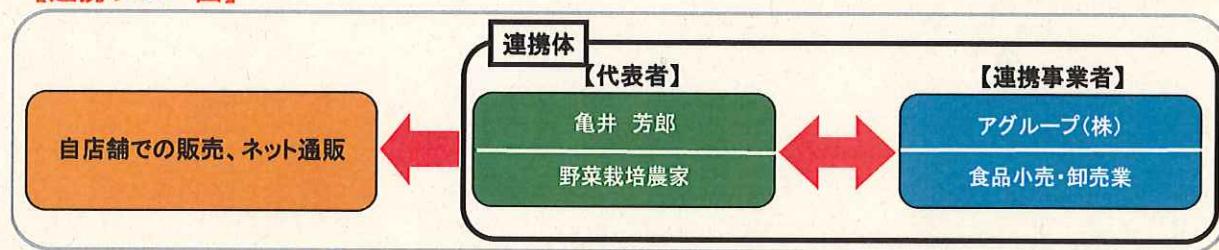


爆裂種とうもろこし



ナチュラルポップコーン

【連携フロー図】



【連携による効果】

農林漁業者

爆裂種とうもろこしのポップコーンを製造し経営の安定化

乾燥品として出荷できない爆裂種とうもろこしをポップコーンとして商品化し6次産業化に取り組むことで、収益が拡大し、経営の安定が期待できる。

中小企業者

野菜のネット販売先に新たな商品を提案し販売拡大

年間を通して京都の野菜を継続的に取り扱うことが難しいなか、京都産にこだわった加工品を開発することで、品揃えを増やし売上の拡大を目指す。

就農体験・防災訓練農場の開設で里山から元気を発信!

京丹波町で野菜の生産販売を行う農業者と京都市内及び京丹波町内で障がい者就労支援事業所を運営する中小企業者が連携。休耕地等での農業体験、防災かまどを使った非常時炊き出し体験などにより地域に雇用の場を取り戻し、将来の帰農者、農業者育成にも資する。

農林漁業者

桑木 康男

〈京丹波町〉

中小企業者

株式会社京のちから

〈京都市中京区〉

【連携のねらい】

○農林漁業者

農業労働力の不足を補うとともに、農産物の販売委託により農業経営の安定化を図る。

○中小企業者

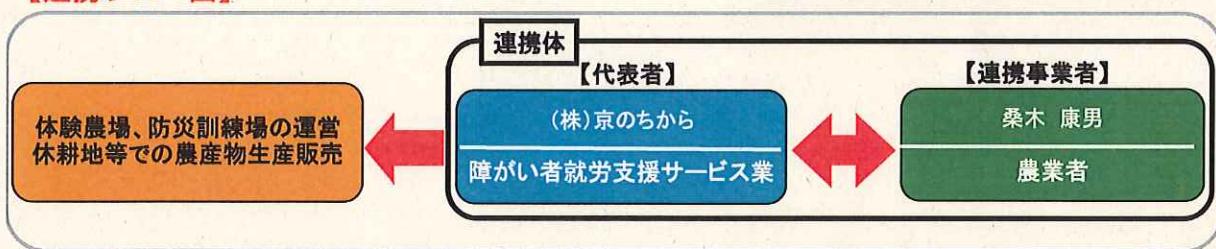
農業への障がい者雇用を創出し、休耕地等での耕作を拡大することで地域農業の活性化に貢献する。

【他の商品との違い】

就農体験、防災訓練体験を広く提供することで、地域の活性化を図る。



【連携フロー図】



【連携による効果】

農林漁業者

就農体験等を通して地域の農業振興に貢献

就農体験等で参加者に農業技術の指導・助言を行い、栽培技術を伝えていくことで地域農業の振興に貢献することができる。

中小企業者

障がい者の雇用の場を創出し、地域の活性化

農産物の栽培を通じて障がい者の雇用の場をつくるとともに、近隣農家から農産物を仕入れ、販売を行うことで、地域貢献が期待できる。